

メッセージアウトライン

日付	2013年3月3日
単元	マタイの福音書・3
テーマ	神を愛し、人を愛する者となる
タイトル	いちばん大切なこと
テキスト	マタイ22:34～40
参照箇所	申命記6:5、レビ19:18、マルコ12:28～31、ルカ10:25
暗唱聖句	マタイ22:37「心を～愛せよ」と22:39「あなたの～愛せよ」

導入	パリサイ人と呼ばれる人が、イエスさまに「聖書の中で一番たいせつなことは何ですか？」と質問をしました。みなさんも、その答えを知りたいと思いませんか？
I	<p>律法の中で、たいせつな戒めはどれですか？(34－36節)</p> <p>A. 律法の専門家がイエスさまに質問しました</p> <p>B. 彼らはイエスさまをためそうとしたのです</p> <p>C. 彼らは「先生、律法の中で、たいせつな戒めはどれですか？」と尋ねました</p>
II	<p>「心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くしてあなたの神である主を愛しなさい」(37－38節)</p> <p>A. 内にあるものすべて(心・思い・知力)を尽して愛しましょう</p> <p>B. 「愛する」とは、「大切にすること」です</p> <p>C. これが、一番たいせつな戒めです</p>
III	<p>「あなたの隣人をあなた自身のように愛しなさい」(39－40節)</p> <p>A. 「隣人」とは、「あなたの周りにいる人」と「助けを必要としている人」のことです</p> <p>B. あなた自身のように、隣人を愛しましょう</p> <p>C. 第2の戒めも、第1の戒めと同じように大切です</p>
結論	イエスさまは、神さまを愛し、人を愛することが一番たいせつだと教えてくださいました
適用	<p>1. イエスさまの気持ちを、一番に大切にしよう！ 私たちのすべてで、いつも精一杯お祈りし、賛美し、礼拝しよう。精一杯、聖書を読み、メッセージをきき、ディボーションし、神さまのみこころを知ろう。そして、精一杯、みこころのとおりに行動しよう。これが神さまを愛するということです。「一番たいせつなこと」ですから、今日から守っていきましょう。</p> <p>2. あなたの助けを必要としている人の気持ちを考えて行動しよう！ あなたの助けを必要としている人を思い起こしましょう。あなたが、その人の立場だったら、どうして欲しいかを考えましょう。そして、あなたがして欲しいと思うことを、その人にしましょう。困っている人だけでなく、あなたの関わる人、すべてに対して、自分と同じように、相手の気持ちを思いやることを心がけましょう。</p>
備考	



メッセージアウトライン

日付	2013年3月10日
単元	マタイの福音書・3
テーマ	再臨を喜んで迎えられる者となる
タイトル	目をさましていなさい
テキスト	マタイ25:1～13
参照箇所	使徒1:3～11
暗唱聖句	マタイ25:13

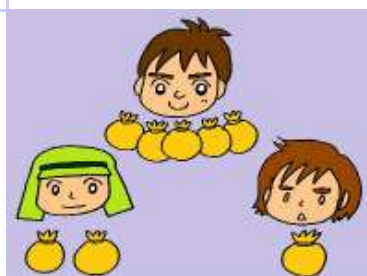
導入	イエスさまは、地上での生涯の後半になると、十字架にかかること、3日めによみがえること、天に戻ってから再びこの地に来られること(再臨)について、弟子たちに譬えをお話しになりました。
I	<p>イエスさまは、花婿を出迎える10人の娘のたとえ話をなさいました(1～5節)</p> <p>A. 愚かな娘たちは、ランプだけ持って待ちました</p> <p>B. 賢い娘たちは、ランプと予備の油を持っていました</p> <p>C. 花婿の到着が遅くなったので、娘たちは眠り始めました</p>
II	<p>賢い娘たちは、花婿がいつ来てもいいように用意ができていました(6～12節)</p> <p>A. 花婿が到着したとき、愚かな娘たちは、油を買いに行かなければなりませんでした</p> <p>B. 賢い娘たちは、花婿を迎えることができました</p> <p>C. 愚かな娘たちは、祝宴に入るできませんでした</p>
III	<p>イエスさまは、「目をさましていなさい」とおっしゃいました(13節)</p> <p>A. イエスさまは再び地上に来ることを約束なさいました</p> <p>B. イエスさまがいつ来られるかは誰も知りません</p> <p>C. いつイエスさまが来られてもお迎えできる準備を整えましょう</p>
結論	いつイエスさまが来られても大丈夫なように、準備して待つことが大切です
適用	普段から、イエスさまとよい関係で過ごしましょう！ 私たちにとって「目をさまして待つ」とか「賢い娘たちのようになる」ということは、「イエスさまといつもよい関係でいること」ということができます。私たちは、イエスさまを信じる信仰によって、間違いなく、天国に行きます。だからと言って、いつもイエスさまを悲しめるような生活をしていたら、再臨のとき、喜んでお迎えすることができませんね。普段から、イエスさまと良い関係であれば、突然イエスさまが来られても、困ることはひとつもありません。
備考	



メッセージアウトライン

日付	2013年3月17日
単元	マタイの福音書・3
テーマ	忠実なしもべになる
タイトル	忠実なしもべ
テキスト	マタイ25:14～30
参照箇所	ルカ19:11～27、16:10、Iテモテ1:12、ヘブル2:17、黙示録2:10
暗唱聖句	マタイ25:21

導入	イエスさまは、父なる神さまの願いに従って十字架にかかろうとする前に、弟子たちにも忠実に生きることをお話しになりました。
I	<p>主人はしもべたちに自分の財産をあずけました(14～18節)</p> <p>A. タラントの多いしもべがいました。</p> <p>B. タラントの少ないしもべがいました。</p> <p>C. タラントをもらわなかったしもべはいませんでした。</p>
II	<p>主人が帰ってきて清算をしました(19～30節)</p> <p>A. タラントを使ってもうけたしもべがいました</p> <p>B. タラントを使わなかったしもべがいました。</p> <p>C. タラントを使わなかったしもべは、取り上げられました</p>
III	<p>主人は忠実に働いたしもべを喜びました(21、23節)</p> <p>A. 主人はタラントを使ったしもべを喜びました。</p> <p>B. 5タラントもうけたしもべにも、2タラントもうけたしもべにも、主人は同じ言葉をかけて喜びました。</p> <p>C. 主人はしもべが忠実に働いたことを喜びました。</p>
結論	主人が忠実に働いたしもべを喜んだように、神さまも私たちが忠実に生きることを喜ばれます。
適用	どんな人にも神さまからタラント(能力)が与えられていて、神さまのために何かをすることができます。それは人と違っていてもかまいません。神さまのためにどんなことができるか考えてみましょう。イエスさまも神さまの御心(願い)に従って忠実に十字架の道を歩まれました。わたしたちも、神さまのためにできることやまかされていることをやめてしまわないで、忠実にそのことをしていくなら、父なる神さまは喜んでくださいます。
備考	



メッセージアウトライン

日付	2013年3月24日
単元	マタイの福音書・3
テーマ	十字架を信じ、感謝する者となる
タイトル	どうしてわたしをお見捨てになったのですか
テキスト	マタイ26:47～27:50
参照箇所	マルコ14:41～15:37、ルカ22:47～46、ヨハネ18:1～19:37、Iペテロ2:22～25、イザヤ53、ローマ3:23～24、ヨハネ1:8～9、ヨハネ3:16、Iテモテ1:15、使徒16:31
暗唱聖句	マタイ27:46「わが神～なったのですか」 or ヨハネ3:16 or Iテモテ1:15

導入	イエスさまは、十字架にかかるため、エルサレムに入られました。
I	<p>イエスさまは不当な裁判にかけられました(26:47～68、27:1～2、27:11～25)</p> <p>A. 群衆が、イエスさまを捕らえに来ました</p> <p>B. 祭司長たちは、イエスさまを訴えるための偽証を求めました</p> <p>C. ピラトは、イエスさまを十字架刑にすることを許可しました</p>
II	<p>イエスさまは人々からあざけられました(27:26～31)</p> <p>A. ピラトは、兵士たちに、イエスさまを鞭で打つように命令しました</p> <p>B. ローマの兵士たちは、イエスさまをばかにしました</p> <p>C. 人々は、十字架につけられたイエスさまをののしりました</p>
III	<p>イエスさまは、十字架で息を引き取られました(27:45～50)</p> <p>A. イエスさまは、「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」と叫ばれました</p> <p>B. イエスさまは、もう一度大声で叫んでから、息を引き取られました</p> <p>C.</p>
結論	イエスさまは、私たちの身代わりとなって、十字架にかかって死んでくださいました
適用	<p>1. イエスさまを信じよう！ イエスさまを信じるなら、永遠の命を手に入れることができます。それは、永遠に神さまから見捨てられず、ず～っと一緒にいられるということです。天国に行くことができるのです。イエスさまが身代わりに犠牲になってくださいました。これほどのことを実行してくださるほどに、神さまは私たちのことを愛してくださっているのです。今まで神さまに背いて、自分勝手に生きてきた罪を告白し、イエスさまを信じるお祈りをしましょう。</p> <p>2. クリスマンのみなさんも、もう一度、イエスさまの十字架に感謝しよう。イエスさまが、裏切られ、不当な裁判を受け、ピラトにも見放され、鞭打たれ、あざけられ、ののしられても、十字架にかかってくださったからこそ、私たちの罪は赦されたのです。毎日、この十字架の愛に感謝しよう。そして、この愛に応えて生きていこう。もし、まだ心の中に罪があることに気がついたら、すぐにお祈りしよう。</p>
備考	

